

# 離床センサー 現場レポート！

VOL.23  
Apr.2011

「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

車イスやイスからの転倒事故の対策として、利用者の立ち上がりを知らせる「座コール」を使用されている、埼玉県 Y 様と福岡県 G 様の例をご紹介します！

埼玉県・老人保健施設 Y 様

ご使用機種：座コール・メロディタイプ (ZC-11N)

## 課題

食事中に、いすから不意に立ち上がり、ふらついて転倒するリスクがある利用者が居る。  
立ち上がろうとする動きを察知し、転倒を防止したい。

## 対策

転倒リスクが高い利用者に「座コール・メロディタイプ」を設置。  
スタッフに近いテーブルの端の方を利用してもらうことにした。

## 効果

利用者がイスから腰を浮かせた段階で察知でき、動線が確保されているので近くのスタッフが迅速に対応し、転倒事故が防止できた。



福岡県・有料老人ホーム G 様

ご使用機種：座コール・ポータブル 2 (ZCP-10)

## 課題

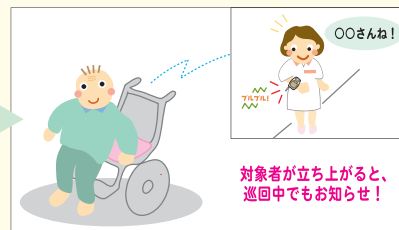
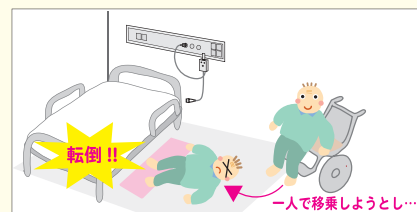
入居者が介助スタッフを呼ばずに、車いすからベッドへの移乗をしようとする事がある。室内で動きが見えず、対応が難しい。  
床敷きタイプのセンサーを設置したが、対応が間に合わない。

## 対策

入居者が、車いすから立ち上がろうとする動きを早期に察知し、スタッフが離れた場所においても対応できるよう、「座コール・ポータブル 2」を採用。

## 効果

個室内の見えない入居者の動きを、携帯型受信器で知らせるので、スタッフが周囲に居なくても対応する事ができ、単独の移乗による事故のリスクを軽減することができた。



## 「座コール設置」ちょっとポイント！

### ポイント①

センサーの汚れ・失禁対策として、袋状のもので包みメッシュタイプの滑り止めシートの上に設置する。

\* 密封すると、センサーの空気穴がふさがり、誤動作等の原因になりますのでご注意ください。



### ポイント②

対象者がセンサーに気づきにくいよう、センサー上に薄手の座布団を敷いてカモフラージュ。

\* 厚い座布団は誤作動の原因になるので併用は避けて下さい。



### ポイント③

いすの背もたれにマルチアラームや送信器を引っ掛けると対象者に気づかれなかったり、触られて落下する事があります。そこで、イスの脚に突っ張り棒を付け、フックを引っ掛ける。こうすると、センサーも接続機器も見えなくする事ができ、対象者に気づかれにくく、故障も少なくなります。

Y様ではこのようにも設置工夫されています！

